

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名

いやなが保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「やさいのおなか」 2歳児

<テーマの設定理由>

当保育園周辺は、野菜畑が多い地域であり、子どもたちは野菜の外側の形状や色に関心が高い。さらに、野菜の生育を身近に観察したり、成育野菜の内側（可食部）にも直接触れ確かめる体験を通じて、「食」や「いのち」への気づきにつなげたいと考えた。

2. 活動スケジュール

- 【4月】テーマ決定、問いの検討、環境デザインの検討、探究活動の実践/5回
- ・絵本「やさいのおなか」を見る。
 - ・タケノコのおなか（皮むき・断面に触れる・においをかぐ・断面をスタンプ）
 - ・イチゴのおなか（授粉を見る・収穫する・触れる・においをかぐ・断面をスタンプ）
- 【5月】探究活動の実践/5回
- ・ナス・オクラ・ピーマン・プチトマト・ゴーヤのおなか（苗を植える・水やり・観察）
 - ・ラディッシュ・カブのおなか（断面に触れる・においをかぐ・断面をスタンプ・食べる）
 - ・もち米（田植え）
- 【6月】探究活動の実践/3回
- ・ナス・オクラ・ピーマン・プチトマト・ゴーヤのおなか（収穫する・触れる・においをかぐ・断面をスタンプ）
 - ・キャベツのおなか（断面に触れる・においをかぐ・断面をスタンプ）
 - ・トモロコシのおなか（皮むき・断面に触れる・においをかぐ・断面をスタンプ・食べる）
- 【7月】探究活動の実践/3回
- ・キュウリ・白ナス・カボチャのおなか（断面に触れる・においをかぐ・断面をスタンプ・食べる）
 - ・ジャガイモのおなか（収穫・触れる・においをかぐ・断面をスタンプ）
 - ・スイカのおなか（スイカ割り・断面を見る・においをかぐ・食べる）
- 【9月】探究活動の実践/2回
- ・ニンジン（種まき）・もち米（稲刈り）
- 【10月】途中経過のまとめ、探究活動の実践/2回
- ・ニンジン（収穫・触れる・においをかぐ・断面をスタンプ）・ハクサイ（断面に触れる・においをかぐ・断面をスタンプ）
- 【11月】探究活動の実践/0回 職員・保護者・地域の方に報告
- 【12月】探究活動の実践/4回
- ・ユズ（断面に触れる・においをかぐ・断面をスタンプ）・ほうれんそう（断面に触れる・断面をスタンプ）
 - ・もち米（脱穀・粳すり・餅つき）
- 【1月】探究活動の実践/1回、土などの片付け
- ・鏡開き
- 【2月】振り返り 記録の整理
- 【3月】まとめ 職員・保護者・地域の方に報告

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 【図書】絵本 「やさいのおなか」 福音館
- 【栽培する野菜】イチゴ、ナス、オクラ、ピーマン、プチトマト、ゴーヤの苗、もち米の種粃
- プランター、バケツ、如雨露、支柱、土、すのこ、
- 【鏡餅を作る手順】
- ・脱穀（牛乳パックで）
 - ・もみすり（すり鉢、硬式野球ボール）
 - ・もみ殻と玄米を分ける（うちわ、小型扇風機）
 - ・餅つき（ボウル、麺棒、水、片栗粉）（稲の生育や工程の写真を参照ください）
- 【野菜のおなか（断面）をスタンプする】
- ・絵の具、筆、パレット、画用紙
- 【場所の設定】
- ・子どもたちが水やりしやすく、室内からいつでも生育が見えるような位置に植物を置いた。
 - ・トマトでは水分が多く断面をスタンプするには不向きなため、プチトマトを選んだ。
 - ・プチトマトは誤食窒息防止のため園外で育て、子どもが触れる際は、保育者が傍に付き見守った。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

季節が進むに合わせて、様々な野菜やもち米を育てた。外見とともに野菜のおなか（断面）を観察し、興味関心を深め、楽しみながら探究した。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- ・タケノコやピーマンの「おなか」を観察したときは、「すんすんする」「このにおいやだ」と顔をしかめながら言っていた。「大きい部屋と小さい部屋があるね」と保育者が声をかけると、指を入れて大きさや感触を確かめようとしていた。
- ・イチゴは、花や青い実の段階ではわからないようだったが、成育し実が赤くなると「いちごだ!」「いいにおい」「おいしそう」と言いながら葉の裏まで探す姿が見られた。また、イチゴの断面をみてスタンプを楽しんだ。
- ・白ナスやラディッシュなど、なじみのない野菜にも興味を持って手を伸ばしたり匂いを嗅ぐようしていた。調理員が白ナスを加熱すると白い皮が紫に変化するのをじっとよく見ていた。
- ・4月の初めのうちは野菜の栽培に興味がなかった子も次第に苗が成育し実がなることで興味をもつようになった。
- ・みんなで水やりを楽しみながら野菜の成育を感じ、「おおきくなっている」「たべたいな」「つやつやしている」などと友達同士でささやきあっていた。夏場には保育者が水やりをしている様子を窓にくつつきながら見て「ここになすがあるよ」と保育者に伝え野菜の成育を楽しみにしていた。
- ・断面のスタンプの形をじっと見つめ、その形の面白さを感じる事ができた。ナスを「バナナみたい」ピーマンを「ねこちゃんみたい」と自由な発想や発見をしていた。いつもお店で見ている形とは違ういびつな形の野菜を見て「なんでまるくないの?」と疑問を感じる子もいた。
- ・ユズの縦切りの断面を見て「かぼちゃみたい」との気づきがあったので、カボチャのおなかのスタンプと比べてみた。ほかの子もスタンプを見比べていた。
- ・稲の栽培によって、一粒の種籾から芽が出てから、田植え、刈り取り、脱穀、もみすり、餅つき（鏡餅づくり）まで体験することができた。だんだんと活動に積極的になり「やりたい」「もっと」と言いながら取り組む姿勢に意欲の高まりを感じた。餅つきではひとりでの餅つきだけでなく、友達を誘って一緒に棒を持って餅つきする姿も見られた。



イチゴのスタンプ



野菜の水やり



とうもろこしの皮むき



もち米の収穫



もみすり・鏡餅

5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

- ・苗を見ても生育後の野菜の姿と結びつかなかった子どもたちが、生育過程を見ていくうちに、少しずつ興味を持ち、収穫の喜びを感じられるようになった。
- ・自分たちで触れた野菜を食べるときには、「これむいたやつだよ（タケノコ・トウモロコシ）」と嬉しそうに料理の中から探して食べたり、「なすだいすき」と言って食べたりした。また、今までは食べなかったもの（芋もち）を食べてみようとする子もおり、野菜を身近に感じることで食への意欲が高まった。
- ・さらに、断面を見ることで、2歳児ならではの豊かな発想、疑問、面白さを、保育者や友達と共有した。「こんどの野菜はどんな「おなか」かな?」と、次の活動に期待する姿が見られた。
- ・子どもが水やりをしやすい場所で栽培するように職員同士で話し合い、検討を重ねて決定した。暑さ状況に応じて場所を移動したことで、安全に、一人ひとりの子どもが満足するまで活動に取り組むことができた。
- ・酷暑の今年は、子どもたちから見やすい場所（保育室窓の前）に栽培スペースを移設し、職員が水やりを行うこととした。それでもゴーヤは生育を維持するのが難しかった。
- ・野菜を園で収穫したり、近隣の農家からいただいたりすることで、季節の旬の野菜を実際に見て触れ、重さを感じる事ができた。
- ・ジャガイモは1歳児のときも植えたので、今年により興味を深めたようだった。
- ・刈り取ったもち米を子どもたちの見える場所に干し、脱穀などの活動も一緒に楽しめた。
- ・育てたもち米で、鏡もちづくり、鏡開きへと続く活動によって、日本の伝統行事に触れることができた。
- ・4月から活動を開始できたことで、取り組む回数が増え、「〇〇みたい」などと積極的に友達同士で発見を伝え合い、子どもたちの興味の深まりや成長が感じられた。